

いま

「現在」に感じる古の鯨場

ソーラン節を通じた交流とルーツ

「ソーラン節」のルーツを探る

古の鯨漁最盛期に作業歌として歌われたとする北海道を代表する民謡「ソーラン節」。

今も町内の多くの人に親しまれ、保存伝承されています。そんな身近なソーラン節がどのようなルーツをたどったのか。積丹町史に記された歴史とソーラン節が結んだ「縁」を紹介します。

作業歌として歌われた 鯨場音頭

明治から昭和20年代まで、ニシンが群来てくると海の色は乳白色に変わり、漁村はカモメとニシンに溢れ、沖合いから波間を縫って漁夫の威勢のいい掛け声が聞こえてきたそうです。

陸岸から漁場まで畝を漕ぐときの船漕ぎ音頭。

定置網いっぱいに入ったニシ

ンを枠網（大きな網袋）に入れ移す時の網起こし音頭。

枠網の中のニシンを船に組み上げるときの沖揚げ音頭。

網に産みつけた卵を落とす時の子叩き音頭。

鯨場音頭は作業歌として、北海の荒波のなか眠気や寒気と闘うやん集を力づけるために歌われました。積丹町で伝承される鯨場音頭は、これら4部で構成され、その中でも沖揚げ音頭





(ソーラン節)は、満足感と解放感が交錯する中、最も威勢よく歌われたとされています。

荷上げ木遣り歌が元歌に!?

積丹町史には、「ソーラン節は青森県野辺地町の【荷上げ木遣り歌】が元歌らしい」とあります。

「木遣り」は、重い木材や石を運ぶ重労働で、「荷上げ木遣り歌」は、その作業歌として歌われていました。

鯨の盛漁期には多くの労力を

必要とすることから、青森県、秋田県、山形県、岩手県などからたくさんの人たちが「やん衆」として渡道しています。

このような人たちから木遣り歌が伝わり、やがて「ソーラン節」へと変化したと考えられています。

昭和12年に青森県野辺地町で収集されたという「荷上げ木遣り歌」は「ヤーレン、ソーラン、ソーラン、ソーラン」や「ヨイヤサ ドッコイショ ア ドッコイショ」とソーラン節の歌詞と大きく酷似しています。

陸の作業歌が海辺に下り、「荷上げ歌」としてタモ網でニシンを汲みとる時の海の労働歌へと自然な形で変形した背景から、先人の陸と海での過酷な状況での勇ましい作業の様子が想像できます。普段から聞きなれた民謡の背景を感じることで、いつもとは少し違ったソーラン節に感じないでしょうか。

積丹町が「ソーラン節の発祥の地」として普及

さらに、積丹町史には鯨漁労法の革命といわれた枠網が、積

丹町の漁師により考案されたことが「発祥の地」としての由来であり、また、美国町出身の大場信太郎が美国鯨場音頭保存会の一行とともに昭和28年から昭和38年まで全道、全国の民謡大会などに数多く出演したことや、昭和38年から42年に札幌市狸小路の蝦夷御殿で専属民謡歌手として活躍していたことにより、積丹町がソーラン節の発祥の地としての知名度が向上・普及したとあります。

ニシン漁で発展した積丹町の歴史や文化と切り離すことのできない鯨場音頭は、昭和63年に町の無形文化財に指定され、今も保存伝承されています。「積丹町鯨場音頭保存会」は、後志管内で開催されるイベントで披露されるなどの活動が続けられています。

青森県野辺地で「沖揚げ音頭保存会」が設立

一方、ソーラン節の元歌とされる荷上げ木遣り歌が伝えられた青森県野辺地町では、木遣り歌の形を変えたソーラン節が持ち帰られ、祝い歌として歌い

いま
「現在」に感じる古の練場

▶ 積丹町練場音頭保存会



積丹町が伝統する音頭」と発祥の地・野辺地町の方々が受け継ぐ「沖揚げやん集」として来道した、木遣り歌とともに話します。

既に利尻町を訪れるなど道内との交流も実施している「のへじ沖揚げ音頭保存会」ですが、「ソーラン節の発祥の地積丹町との交流はとて

継がれています。銀鱗にまみれながら、ニシンをたもてすくい上げるときに歌われる沖揚げ音頭が、祝い歌として歌い継がれていることから、当時のやん集の満足感あふれる様子が伺えます。そんな当時のニシン漁の様子や沖揚げ音頭を後世に伝えるため、当時やん集として渡道し、道内のニシン漁に従事した15人は、平成20年に「のへじ沖揚げ

「積丹ソーラン味覚祭り」で交流が実現

6月27日(日)に開催される第5回積丹ソーラン味覚祭りでは、「のへじ沖揚げ音頭保存会」が積丹町を訪れ、沖揚げ音頭を披露するなど、「ソーラン節発祥の地」積丹町との交流が行われます。

音頭保存会」（柴崎政人会長）を設立しました。

「ソーラン節」。数十年の時を経て、ソーラン節を通じた「縁」。密接な関係やそれぞれ時間の経過とともに独自の道を行ってきた文化と伝統を感じることができるとは、ないでしょうか。

町内に点在する歴史的建造物の活用を取り組みも

昭和30年頃からニシンはこつ然と姿を消し、「幻の魚」となったのを境にニシン漁は衰退することになります。町内には、練場当時の面影を残す歴史的に貴重な建物が残っています。多くの歴史が刻まれた練番屋や石倉には、歴史的資源としての価値を有しており、地域の歴史や文化を伝えるためにこれらの保存は大変重要になっています。来月号では、町内に残る貴重な歴史的建造物やこれらの保存・活用を目的に始まった取組みについて紹介します。

第5回

積丹ソーラン味覚祭り

6月27日(日)開催

【会場】 美国漁港広場
【時間】 9:00~20:30

【同日開催】 神威岬灯台一般公開（小樽海上保安部）時間／10:00~15:00

直径150cm大鍋登場!

ジャンボ浜鍋 格安販売!

旬の食材がずらり!

浜値朝市 積丹特産品市場!

注目のステージアトラクションは

- ◆YOSAKOIソーランの舞
- ◆バンド演奏・演歌
- ◆幌武意太鼓 ◆練場音頭競演
- ◆ソーラン輪踊 ◆歌謡ショー
- ◆豊漁豊作餅撒き ◆花火大会 ほか

イベントに関するお問い合わせは／積丹ソーラン味覚祭り実行委員会(積丹町役場商工観光課内) ☎44-2111